

安全のために必ずお守りください

■お客様登録のお願い

製品に関する情報をお知らせするために、お客様登録をお願いします。

登録は弊社ホームページにて可能です。

下記URLにアクセスして登録を行ってください。

<http://pioneer.jp/support/members/>

なお、登録時に保証書に記載されている内容が必要になりますので、保証書をお手元にご用意ください。

弊社からの本製品の安全に関する重要なお知らせは、お客様登録をしていただいたお客様にいたします。必ず登録をしていただきますようお願いいたします。

はじめに

ここだけ読めばすぐ使えます

CDを聞く

ラジオを聞く

音を調節する

初期設定

システム設定

便利な機能

取り付けの準備

接続・取り付けと動作確認

付録

DEH-380

CD/チューナーメインユニット

取扱説明書



目次 5 ページ

carrozzeria




安全上のご注意 (安全にお使いいただくために必ずお守りください)

あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、必ずお守りいただくことを説明しています。

- 表示内容を無視して、誤った使いかたをしたときにおよぼす危害や損害の程度を次の表示で区分し、説明しています。

	警告	「人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容」です。
	注意	「人が軽傷を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容」です。

- お守りいただく内容の種類を次の絵表示で区分し、説明しています。

	注意(警告を含む)しなければならない内容です。		必ず行っていただく強制の内容です。
	禁止(やってはいけないこと)の内容です。		

AU-001-001

接続・取り付け

警告



禁止

本機は、DC12V \ominus アース車専用です24V車で使用しないでください。火災や故障の原因となります。

エアバッグの動作を妨げる場所には、絶対に取り付けと配線をしない
エアバッグ装着車に取り付ける場合は、車両メーカーに作業上の注意事項を確認してください。エアバッグが誤動作し、死亡事故の原因となります。

前方視界や運転操作を妨げる場所、同乗者に危険を及ぼす場所には絶対に取り付けない

交通事故やケガの原因となります。

電源コードの被覆を切って、ほかの機器の電源を取らない

電源コードの電流容量がオーバーすると、火災や感電、故障の原因となります。

取り付けには保安部品(ステアリング、ブレーキ、タンクなど)のボルトやナットは絶対に使用しない
これらを使用すると、制動不能や発火、交通事故の原因となります。

警告



禁止

アンテナは、保安基準に適合しない場所に貼り付けたり、再貼り付けや汎用の両面テープで貼り付けたりしない

視界不良やアンテナがはがれて、事故の原因となります。



強制

取付・配線、取付場所の変更は、安全のため必ず販売店に依頼する

取付・配線や取り外しには、専門技術と経験が必要です。誤った取り付けや配線、取り外しをした場合、車に重大な支障をきたす場合があります。

作業前はバッテリーの \ominus 端子を外す
 \oplus と \ominus 経路のショートにより、感電やケガの原因となります。

作業前に、パイプ類、タンク、電気配線などの位置を確認する

車体に穴を開けて取り付ける場合は、パイプ類・タンク・電気配線などに干渉・接触しないように注意してください。また、加工部のサビ止めや浸水防止の処置を行ってください。

警告



強制

必ず付属の部品を使用し、確実に固定する

付属の部品以外を使用すると、機器内部の部品を損傷したり、しっかりと固定できず外れて運転の妨げとなり、事故やケガの原因となります。

説明書に従って接続・取り付けする
説明書に従わずに接続・取り付けを行うと、火災や故障の原因となります。

コードの被覆がない部分はテープなどで絶縁する

ショートにより、火災や感電、故障の原因となります。

車体やネジ部分、シートレールなどの可動部にコードを挟み込まないよう配線する

断線やショートにより、火災や感電、故障の原因となります。

コード類は運転操作の妨げとならないように固定する

ステアリングやセレクトレバー、ブレーキペダルなどに巻き付くと、事故の原因となります。

取り付けと配線が終わったら、電装品が元通り正常に動作するか確認する

正常に動作しない状態で使用すると、火災や感電、交通事故の原因となります。

ねじなどの小物部品は、乳幼児の手の届かないところに保管する

誤って飲み込んだ場合は、ただちに医師に相談してください。

注意



禁止

直射日光やヒーターの熱風が直接当たる場所に取り付けない

内部温度が上昇し、火災や故障の原因となることがあります。

アンテナやモニターを不安定なところに取り付けない

落下などの原因となることがあります。

通風口や放熱板をふさがない

内部に熱がこもり、火災や故障の原因となることがあります。

コード類は絶対に途中で切断しない

コード類にはヒューズがついている場合があるため、保護回路が働かなくなり、火災の原因となることがあります。

注意



禁止

コード類の配線は、車体の高温部に接触させない

火災や感電の原因となることがあります。

製品同梱の電源リード線は、バッテリーに直接接続しない

火災や感電の原因となることがあります。電流が不足して、バッテリーから直接電源を取る場合は、専用の配線キットを使用してください。

分岐配線をしない

ケーブルが加熱して、火災・感電の原因となることがあります。

雨が吹き込む所や水や結露、ほこり、油煙などが混入するところには取り付けない

発煙や発火、故障の原因となることがあります。

コードが金属部に触れないように配線する

金属部に接触するとコードが破損して、火災や感電、故障の原因となることがあります。

アンテナやカメラは車幅や車の前後からはみ出さない場所に取り付ける
歩行者などに接触して、思わぬ事故の原因となることがあります。

アンテナコード等を車内に引き込む際は、雨水の浸入に注意する

雨水が車内に浸入すると、火災や感電の原因となることがあります。



強制

使用方法

警告



禁止

運転者は走行中に操作をしない

前方不注意となり交通事故の原因となります。必ず安全な場所に停車してから操作してください。

メディア挿入口に手や指、異物を入れない

ケガや感電、火災や故障の原因となります。

液体で濡らさない

発煙・発火・感電の原因となります。特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。

リモコンなどを放置しない

停車した時やカーブを曲がるときに、リモコンなどが足もとに転がり、ブレーキペダルなどの下に入り込むと運転の妨げになり、交通事故の原因となります。

警告



禁止

画面が映らない、音が出ない、音声
が割れる、歪むなどの異常・故障
状態で使用しない

思わぬ事故や火災、感電の原因となります。



接触禁止

雷が鳴り出したら、アンテナコー
ドや本機に触れない

落雷による感電の危険性があります。



分解禁止

分解や改造をしない

交通事故や火災、感電の原因となります。



強制

ヒューズを交換するときは、必ず
規定容量（アンペア）のヒューズを
使用する

規定容量を超えるヒューズを使用すると、火
災や故障の原因となります。

注意



禁止

本機は車載用以外で使用しない

発煙や発火、感電やケガの原因となること
があります。

アンプの放熱部に手を触れない

やけどの原因となることがあります。



強制

音量は、車外の音が聞こえる程度
で使用する

車外の音が聞こえない状態で運転すると、交
通事故の原因となることがあります。



指のケガに
注意

モニターの収納や角度調整時に手
や指を挟まれないように注意する

ケガの原因となることがあります。

電池は正しく使う

警告



強制

事故防止のため、電池は幼児の手
の届かない場所に保管する

万一、お子様が飲み込んだ場合は、ただちに
医師の治療を受けてください。

電池の極性（ \oplus 、 \ominus ）に注意し、表
示通りに入れる

電池の極性を間違えると、破裂、液漏れなど
により、ケガや周囲を汚染する原因となるこ
とがあります。

警告



強制

電池の液漏れが発生した場合は

皮膚や衣服に付着した時は、きれいな水で洗
い流してください。目に入った時は、きれい
な水で洗ったあと、ただちに医師にご相談く
ださい。

注意



禁止

電池をショートさせたり、分解・加
熱をしたり、火や水の中に入れない

電池の破裂や液漏れにより、火災やケガの原
因となることがあります。

乾電池は充電しない

電池の破裂により、ケガの原因となること
があります。

指定以外の電池の使用や、新しい電
池と古い電池を混ぜて使用しない

電池の破裂、液漏れにより、ケガや周囲を汚
染する原因となることがあります。



強制

使いきった電池はすぐに交換する

液漏れにより、周囲を汚染する原因となるこ
とがあります。

リモコンは、直射日光・高温・多
湿の場所を避けて保管する

ケースの変形、内部電池の破裂や液漏れの原
因となることがあります。

異常時の問い合わせ

警告



強制

万一異常が起きた場合は、直ちに
使用を中止し、必ず販売店かサー
ビス相談窓口にご相談する

そのまま使用すると、思わぬ事故や火災、感
電の原因となります。

目次

安全のために必ずお守りください

安全上のご注意 2

はじめに

- バッテリー上がりを防ぐために7
- 初めて本体を使用する際の設定7
- フロントパネルの取り外しかた／
取り付けかた8
- 各部のなまえ9

ここだけ読めばすぐ使えます

- 基本的な操作10
 - 電源 ON・OFF
 - ソース切り換え
 - 音量調節
- CDのふだんの操作10
 - CDを再生する
 - フォルダーを選ぶ
 - 曲を選ぶ
 - 早送り・早戻し
 - CDを取り出す
- ラジオのふだんの操作11
 - バンドを選ぶ
 - 放送局を選ぶ
- よく使う機能をボタンですぐに
操作する13

CDを聞く

- 音を補正して高音質化する14
- 繰り返し再生する14
- 違う曲順で再生する15
- 再生を一時停止する15
- 表示を切り換える16
- タイトルから曲やフォルダーを
さがす16

ラジオを聞く

- ファンクションメニューを
切り換える18
- 複数の放送局を自動的に登録する18
- 左右キーの機能を設定する18
- 放送局を1局ずつ登録する19
- 登録した放送局を呼び出す19
- 表示を切り換える19

音を調節する

- オーディオ調節メニューを
切り換える20
- 前後の音量バランスを調節する20
- 左右の音量バランスを調節する21
- イコライザーカーブを選択する21
- イコライザーカーブを調節する22
- 小さな音量でも聞きやすくする22
- サブウーファースのON / OFFと
位相切り換え23
- サブウーファースのカットオフ
周波数選択とレベル調節23
- 低い音を強調する24
- ハイパスフィルターの
カットオフ周波数を選択する24
- 各ソースの音量をそろえる25

初期設定

- 初期設定メニューを切り換える26
- リアスピーカー出力を設定する26

システム設定

- システムメニューを切り換える27
- 時計を合わせる27
- 時計表示を切り換える28
- 外部機器 (AUX) の音声を
聞けるようにする28
- 交通情報を受信する29

便利な機能

- 時計を表示する29
- ボタンとディスプレイの
明るさを調節する29

取り付けの準備

- 接続・取り付け部品を確認する30
- 取り付けの前に知ってほしいこと30
- 接続の前に知ってほしいこと31

接続・取り付けと動作確認

接続する	32
本体を取り付ける	37
動作を確認する	38

付録

CDの正しい使いかた	39
WMA / MP3 / WAV ファイルについて	40
ディスク内のフォルダーについて	42
故障かな?と思ったら	43
こんなメッセージが表示されたら	44
保証書とアフターサービス	45
商標・著作権など	45
おもな仕様	46

バッテリー上がりを防ぐために

本機をお使いになるときは、必ず車のエンジンをかけてください。

また、本機が電源 OFF のときでも、車のエンジンを止めた状態で、長時間、車のイグニッションスイッチを ON (または ACC) にしないでください。バッテリーが上がるおそれがあります。

ご注意

- 車のバッテリー交換などで本機に電源が供給されなくなると、本機は初期状態に戻ります。本機が初期状態に戻ると、ラジオのプリセットメモリー、時計、オーディオ調整などの設定内容は消去されてしまいます。ラジオのプリセットメモリーは(→「放送局を1局ずつ登録する」19ページ)、時計調整は(→「時計を合わせる」27ページ)を参照して、再設定してください。オーディオ調整の設定内容などは、メモしておくことをおすすめします。再設定の方法については、それぞれのページを参照してください。

初めて本体を使用する際の設定

本体の取り付け後、初めて電源を立ち上げたときに、セットアップメニューが自動で起動します。

1 本体を取り付けた後に、車のエンジンをかける



SET UP が表示されます。

2 ローターリーコマンダーを回して、YESを選ぶ

メモ

- セットアップメニューで設定しない場合、ロータリーコマンダーを回して、NO を選びます。

ご注意

- NO を選択すると、今後セットアップメニューでの設定はできません。その場合は、システムメニューで設定してください(→「システムメニューを切り換える」27ページ)。

3 ローターリーコマンダーを押して、セットアップメニューを表示する

4 ローターリーコマンダーを操作して、時計を合わせる

- ①ロータリーコマンダーを回して、時を合わせる
- ②ロータリーコマンダーを押して、分に切り換える
- ③ロータリーコマンダーを回して、分を合わせる
- ④ロータリーコマンダーを押して、セットアップ終了確認画面に切り換える
QUIT が表示されます。

5 ローターリーコマンダーを回して、YESに切り換える

メモ

- 設定画面に戻る場合は、NO に切り換えてください。

6 ローターリーコマンダーを押して、設定を決定する

セットアップメニューでの設定が完了します。

ご注意

- 30秒間何も操作しないと、セットアップメニューは自動的に解除されます。その場合はセットアップメニューでの設定はできなくなります。システムメニューで設定してください(→「システムメニューを切り換える」27ページ)。

フロントパネルの取り外しかた／取り付けかた

盗難抑制のため、フロントパネルを取り外すことができます（デタッチャブル機構）。



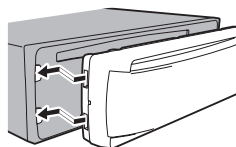
フロントパネルの取り扱い上のご注意

- フロントパネルを無理に引いて取り外さないでください。
- 取り外し、取り付けの際に、ディスプレイやボタンを強く持たないでください。
- 落とす、ぶつけるなどの強い衝撃を与えないでください。故障することがあります。
- 分解しないでください。
- ベンジンやシンナーなどの揮発性の薬品をかけないでください。
- 汚れたときは、きれいな乾いた布でふいてください。その場合に、フロントパネルおよび本体の端子部をさわらないようにしてください。接触不良の原因となることがあります。
- 安全のため、停車してからフロントパネルを外してください。

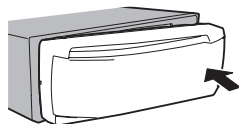
フロントパネルの取り付けかた

1 フロントパネルの左側を本体にあわせる

フロントパネルを本体の左側に確実に合わせてください



2 フロントパネルの右側を押し、本体に取り付ける

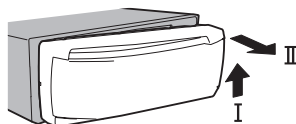


フロントパネルの取り外しかた

1 デタッチボタンを押して、ロックを解除する

2 フロントパネルの右側を上げ（Ⅰ）、手前に引いて取り外す（Ⅱ）

フロントパネルが外れます

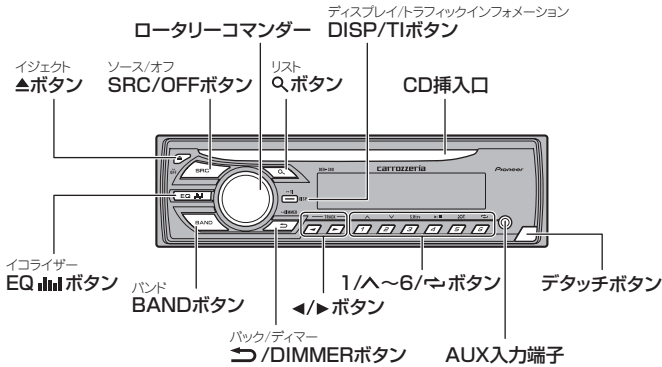


3 フロントパネルを保管する

取り外したフロントパネルは、ケースなどに入れて保管してください

各部のなまえ

本体



ディスプレイ

メイン表示部

ソースやメディア・圧縮フォーマットなどによって、異なる情報を表示します。
 ラジオ：バンドと周波数
 オーディオCD：トラック番号と再生経過時間
 WMA/MP3/WAV：トラック番号と再生経過時間
 各種メニュー：各種の設定内容
 などを表示します。



サブ表示部

再生音と連動するレベルメーターを表示します。



インジケータ表示部

再生状態などを表示します。

	リストを表示しているときに点灯します。		ランダム再生時に点灯します。
	サウンドレトリバーの設定がONのときに点灯します。		メニュー表示で下位階層があるときに点灯します。
	リピート再生時に点灯します。		

基本的な操作

電源 ON・OFF ソース切り換え 音量調節

1 SRC/OFFボタンを押して、電源をONにする

本機の電源が ON になります。

2 SRC/OFFボタンを押して、ソースを切り換える

押すごとに次のように切り換わります。



▼ ソースとは

- SRC/OFF ボタンを押すと切り換わる、CD やラジオなどの音源のことです。

3 音量を調節する

ロータリーコマンドーを回す。

大きくする：右に回す
小さくする：左に回す

約 4 秒間、音量が表示されます。

4 SRC/OFFボタンを長く押し、電源をOFFにする

電源が OFF になります。

✎ メモ

- 音量の調節範囲は 0 ~ 62 です。
- 次の場合にも、電源が ON になります。
 - ・ディスクを挿入口に差し込んだとき
- 次の場合、該当のソースには切り換わりません。
 - ・対応する機器を接続していない
 - ・ディスクをセットしていない
 - ・AUX ソースを OFF にしている (⇒「外部機器 (AUX) の音声を聞けるようにする」28 ページ)
- 工場出荷時は、AUX が ON に設定されています。使用しない場合は OFF に設定してください (⇒「外部機器 (AUX) の音声を聞けるようにする」28 ページ)。

- 本機のアンテナコントロール線の接続状態によっては、ラジオが受信できない場合があります (32 ページ)。また、オートアンテナ車のアンテナを下げる場合は、電源 OFF にしてください。
- ディスクをセットしたまま電源を OFF にすることもできます。
- 時計を表示させている場合、電源を OFF にしても時計は表示されます。

CD のふだんの操作

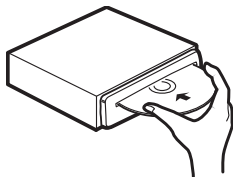
CD を再生する フォルダーを選ぶ
曲を選ぶ 早送り・早戻し CD を取り出す

画面表示例



1 CDを挿入口に差し込む。または、SRC/OFFボタンを押して、ソースをCDに切り換える

再生が始まります。



2 1 / ﾏ ボタンまたは2 / ﺅ ボタンを押して、フォルダーを選ぶ

圧縮オーディオ再生時フォルダーが選べます。

次のフォルダーを選ぶ：1 / ﾏ ボタンを押す
前のフォルダーを選ぶ：2 / ﺅ ボタンを押す

3 ◀ ボタンまたは ▶ ボタンを押して、曲を選ぶ

次の曲を選ぶ：▶ ボタンを押す
前の曲を選ぶ：◀ ボタンを押す

4

◀ ボタンまたは ▶ ボタンを押して、早送り／早戻しする

早送り：▶ ボタンを長く押す
早戻し：◀ ボタンを長く押す

5

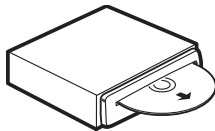
ほかのソースに切り換える。または、電源をOFFにする

再生が終わります。

6

▲ ボタンを押す

CD が出てきます。



メモ

- 圧縮オーディオ再生時は、BAND ボタンを長く押すと、フォルダー 01 (ROOT) に戻ります。ただし、フォルダー 01 (ROOT) にファイルがない場合は、次のフォルダーから再生が始まります。
- ディスクをセットしたまま、電源を OFF にしたりほかのソースに切り換えたりできます。
- 圧縮オーディオファイルと音楽データが混在しているディスクの場合、再生を切り換えることができます。切り換えるときは、BAND ボタンを押します。再生は、先頭の曲から始まります。

ご注意

- ディスクはレーベル面を上にして差し込みます。
- CD 挿入口には、CD 以外のものを入れないでください。故障の原因となります。
- ディスクを挿入すると、本機はディスクからファイル形式などの情報を読みとります。この間、画面には FORMAT READ と表示されます。
- 8 cm ディスクには対応していません。また、アダプターを装着した 8 cm ディスクも絶対に使用しないでください。
- 圧縮オーディオファイルを早送り／早戻ししているときには、音声は出力されません。
- VBR (可変ビットレート) で録音されたファイルを早送り／早戻しすると、再生経過時間が正しく表示されないことがあります。
- 出てきた CD はすぐに取り出して保管してください。CD 挿入口からディスクを出したまま走行すると危険です。
- ▲ ボタンを押して CD 再生をやめたときは、自動的に電源 OFF になります。

ラジオのふだんの操作

バンドを選ぶ 放送局を選ぶ

画面表示例



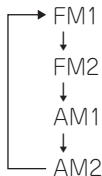
1

SRC/OFF ボタンを押して、ソースをTUNERに切り換える

2

BAND ボタンを押して、バンドを選ぶ

押すたびに次の順序で切り換わります。



3

受信状態の良い放送局を自動でさがして登録する

➔「複数の放送局を自動的に登録する」18 ページ

4

◀ ボタンまたは ▶ ボタンを押して、プリセット番号順に受信する

➔「登録した放送局を呼び出す」19 ページ

次のプリセットチャンネルを選ぶ
：▶ ボタンを押す
前のプリセットチャンネルを選ぶ
：◀ ボタンを押す

ご注意

- 左右キーを押したときの機能が、工場出荷時は MAN (手動選局) に設定されています。PCH (登録した放送局の選択) に切り換えてください(➔「左右キーの機能を設定する」18 ページ)。



メモ

- 放送局を手動で選局する場合は、左右キーを押したときの機能を、MAN（手動選局）に設定します（➡「左右キーの機能を設定する」18 ページ）。
手動選局に設定後は、以下のようにボタンを押して手動選局を行います。
 - ◀ または ▶ ボタンを押す：周波数を順番に送る
 - ◀ または ▶ ボタンを長く押し続けて離す：受信可能な放送局が見つかるまで自動で周波数を送る
- ◀ または ▶ ボタンを押している間、途中の放送局を飛ばすことができます。離れたところから自動選局を開始します。

5

ほかのソースに切り換える。 または、電源をOFFにする

ラジオの受信が終わります。



メモ

- 電波の強い放送局を選局するには自動選局を、電波の弱い放送局を選局するには手動選局をおすすめします。

よく使う機能をボタンですぐに操作する

Q ボタン

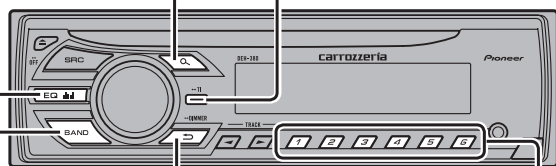
CD ソースのときに押すと、トラックタイトルやディスクタイトル、アーティスト名などが表示されます (→ 16 ページ)。

EQ 曲線 ボタン

押すたびに、あらかじめ用意されたイコライザーカーブを切り換えることができます (→ 21 ページ)。

DISP/TI ボタン

各ソースのときに、押すたびにディスプレイの表示が切り換わります。
電源が OFF のときに押すと、ディスプレイに時計が表示されます。
長く押すと、交通情報を受信します (→ 29 ページ)。



BAND ボタン

メニューや曲名、ファイル名、フォルダー名の一覧 (トラック/ファイル/フォルダーリスト) が表示されているときに押すと、ふだんの再生画面に戻ります。

TUNER ソースのときに押すと、バンドが切り換わります (→ 19 ページ)。

← / DIMMER ボタン

メニュー操作中などは、ひとつ前の画面に戻ります。
ふだんの再生画面のときや、電源 OFF の時計表示中に長く押すとディスプレイが暗くなります。再度長く押すと、通常の明るさに戻ります。

1/▲ (アップ) ボタン

CD ソースのときに押すと、次のフォルダーやアルバムに切り換わります (→ 10 ページ)。

2/▼ (ダウン) ボタン

CD ソースのときに押すと、前のフォルダーやアルバムに切り換わります (→ 10 ページ)。

3/S.Rtrv ボタン

CD ソースのときに押すと、アドバンスド・サウンドレトリバーの設定を切り換えることができます (→ 14 ページ)。

4/▶ / || (再生 / 一時停止) ボタン

CD ソースのときに押すと、再生を一時停止できます (→ 15 ページ)。

5/🎲 (ランダム) ボタン

CD ソースのときに押すと、ランダムプレイを ON / OFF できます (→ 15 ページ)。

6/↺ (リピート) ボタン

CD ソースのときに押すと、再生範囲の設定を切り換えることができます (→ 14 ページ)。

音を補正して高音質化する

S.RTRV

音の密度感や抑揚感を向上させて再生できます。

🔍 アドバンスド・サウンドレトリバーとは

- デジタル信号処理を用いて圧縮音楽の音質を補正する機能です。失われた音を補間して、高音質再生を実現します。

1 SRC/OFFボタンを押して、ソースをCDにする

➔ 「基本的な操作」10 ページ

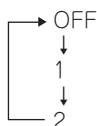
2 ロータリーコマンダーを押して、メインメニューを表示する

3 ロータリーコマンダーを回して、FUNCTIONを選ぶ

4 ロータリーコマンダーを押して、S.RTRVを表示する

5 ロータリーコマンダーを押して、設定を切り換える

押すたびに次の順序で切り換わります。



📝 メモ

- 1 は低圧縮率の音声、2 は高圧縮率の音声に適しています。

6 BANDボタンを押す

ふだんの再生画面に戻ります。

📝 メモ

- アドバンスド・サウンドレトリバーは、3/S.Rtrv ボタンでも切り換えられます (➔ 「よく使う機能をボタンですぐに操作する」13 ページ)。

繰り返し再生する

曲を繰り返し (リピート) 再生できます。繰り返しの範囲は、今聞いている曲やディスク全体などから選べます。選べる範囲はディスクによって異なります。

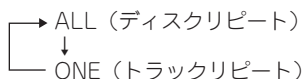
1 SRC/OFFボタンを押して、ソースをCDにする

➔ 「基本的な操作」10 ページ

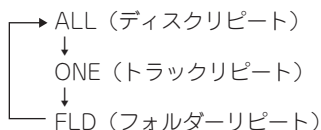
2 6/↶ボタンを押して、再生範囲を切り換える

押すたびに次の順序で切り換わります。

■ CD を再生しているとき



■ WMA / MP3 / WAV を再生しているとき



ALL : ディスクを通して再生
ONE : 再生中の曲を繰り返し再生
FLD : 再生中のフォルダーを繰り返し再生

3 BANDボタンを押す

ふだんの再生画面に戻ります。

📝 メモ

- 選んだ再生範囲は、ランダムプレイの再生範囲に影響します。
- フォルダーリピートは、再生中のフォルダー内の曲だけを再生します。サブフォルダー内の曲は再生しません。

違う曲順で再生する

曲を順不同（ランダム）に再生できます。いつもと違った曲順で音楽を楽しみたいときに便利です。

1 SRC/OFFを押して、ソースをCDにする

→「基本的な操作」10ページ

2 ランダムプレイする範囲を選んでおく

ランダムプレイは、REPEAT で選んだ範囲で行われます（→「繰り返し再生する」14ページ）。

3 5/🔄ボタンを押して、ランダムプレイ設定をONにする

次の曲から、ランダムに再生されます。もう一度押すと、OFF になります。

4 BANDボタンを押す

ふだんの再生画面に戻ります。

メモ

- 再生範囲がトラックリピートのときにランダムプレイ設定をONにすると、再生範囲が次のように切り換わってランダムプレイが行われます。
 - ・CD：ディスクリピート
 - ・圧縮オーディオ：フォルダーリピート
- ランダムプレイ中に曲を変更する場合は、▶ボタンを押して切り換えてください。◀ボタンを押すと、再生中の曲の先頭に戻ります。

再生を一時停止する

曲の再生を一時停止できます。

1 SRC/OFFボタンを押して、ソースをCDにする

→「基本的な操作」10ページ

2 4/▶/||ボタンを押して、再生を一時停止する

もう一度押すと、再生を再開します。

3 BANDボタンを押す

ふだんの再生画面に戻ります。

表示を切り換える

CD-TEXT や CD-ROM (WMA/MP3/WAV) など、文字情報が記録されたディスクでは、トラックタイトルやディスクタイトル、アーティスト名などを表示することができます。



ご注意

- 本機の文字表示は、半角英数字のみに対応しています。

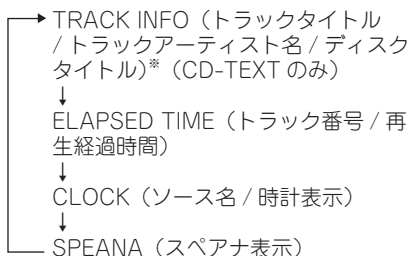
1 SRC/OFFボタンを押して、ソースをCDにする

→ 「基本的な操作」 10 ページ

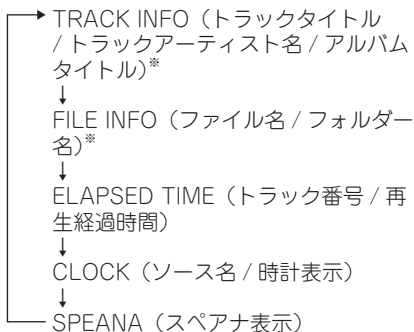
2 DISP/TIボタンを押して、表示を切り換える

押すたびに次の順序で切り換わります。

■ 音楽データ (CD-DA/CD-TEXT) を再生しているとき



■ WMA / MP3 / WAV を再生しているとき



※ 自動で表示が切り換わります。



ご注意

- タイトル名などが収録されていない場合、表示を切り換えると、「NO TITLE」や「NO NAME」などが表示されます。
- ファイルをエンコード/ライティングしたアプリケーションによっては、ファイル名などが正しく表示されないことがあります。
- MP3 ファイルをライティングした iTunes のバージョンによっては、ファイル名などが正しく表示されないことがあります。
- CD-TEXT や CD-ROM など、文字情報が記録されたディスク以外では、タイトルは表示しません。
- Windows Media Player 11 を使用して WAV ファイルをエンコードしたときに、WAV ファイルのファイル名などを表示することができます。

タイトルから曲やフォルダーをさがす

音楽データや圧縮オーディオの再生中に、トラック番号や曲名、ファイル名、フォルダー名の一覧 (トラック / ファイル / フォルダーリスト) を見ながら、聞きたい曲、ファイル、フォルダーを選べます。



ご注意

- 本機の文字表示は、半角英数字のみに対応しています。

1 SRC/OFFボタンを押して、ソースをCDにする

→ 「基本的な操作」 10 ページ

2 Qボタンを押して、トラック番号やトラック / ファイル / フォルダーリストを表示する

3 ロータリーコマンドを回して、トラック番号、曲名、ファイル名、フォルダー名を切り換える

次のトラック／曲／ファイル／フォルダーを選ぶ

：右に回す

前のトラック／曲／ファイル／フォルダーを選ぶ

：左に回す

4 フォルダーの表示時に、ロータリーコマンドを押して、そのフォルダー内のフォルダー／ファイルを表示する



メモ

- フォルダーが表示されているときにロータリーコマンドを長く押しすと、そのフォルダー内のはじめの曲から再生されます。

5 トラック／曲／ファイルの表示時に、ロータリーコマンドを押して、再生する



メモ

- 再生は、トラック／曲／ファイルの表示時に ▶ ボタンを押すことでも可能です。
- 前のリスト（1つ上の階層のフォルダー）に戻るには、◀/DIMMER ボタンを押します。
- 最上位の階層に戻るには、◀/DIMMER ボタンを長く押しします。
- リスト表示中にふだんの再生画面に戻るには、BAND ボタンまたは Q ボタンを押します。
- トラック番号やトラック／フォルダー／ファイルリストは、必ず先頭・ROOT から表示されます。
- フォルダー内に再生できるファイルがない場合、「NO FILES」と表示されます。
- フォルダー内に再生できるファイルがない場合、ロータリーコマンドを押しても再生されません。
- トラック番号やトラック／フォルダー／ファイルリストは、30秒間何も操作しないと自動的に解除されます。

ファンクションメニューを切り換える

「複数の放送局を自動的に登録する」などの機能は、ファンクションメニューで選んで操作します。

1 SRC/OFFボタンを押して、ソースをTUNERにする

→「基本的な操作」10 ページ

2 ロータリーコマンドーを押して、メインメニューを表示する

3 ロータリーコマンドーを回して、FUNCTIONを選ぶ

4 ロータリーコマンドーを押して、ファンクションメニューを表示する

5 ロータリーコマンドーを回して、機能を切り換える

BSM（「複数の放送局を自動的に登録する」）→このページ

↓
SEEK（「左右キーの機能を設定する」）
→このページ



メモ

- ふだんの再生画面に戻るには、BAND ボタンを押します（30 秒間、何も操作しないと自動的にふだんの再生画面に戻ります）。

複数の放送局を自動的に登録する

BSM

BSM 機能を使うと、受信状態の良い放送局を自動でさがして登録できます。登録された放送局をかたんに受信できます。

BSM とは

- BSM は、「Best Stations Memory（ベストステーションズメモリー）」の略です。

1 SRC/OFFボタンを押して、ソースをTUNERにする

→「基本的な操作」10 ページ

2 BANDボタンを押して、登録するバンドを選ぶ

3 ロータリーコマンドーを操作して、BSMにする

→「ファンクションメニューを切り換える」このページ

4 ロータリーコマンドーを押して、BSMによる登録を始める

登録が完了すると、1 の番号に登録された局の放送を受信します。



メモ

- バンドごとに放送局を6局ずつ登録できます。
- 受信状態の良い放送局が6局より少ないときは、前に登録した内容が残ることがあります。

左右キーの機能を設定する

SEEK

◀ ボタン、▶ ボタンを押したときの機能の切り換えができます。

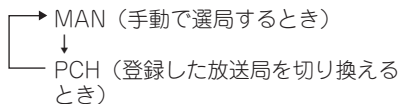
1 SRC/OFFボタンを押して、ソースをTUNERにする

→「基本的な操作」10 ページ

2 ロータリーコマンドーを操作して、SEEKにする

→「ファンクションメニューを切り換える」このページ

3 ローターコマンドを押して、設定を切り換える



放送局を1局ずつ登録する

1/∧～6/⇨のボタンを使って、よく聞く放送局を1局ずつ手動で登録できます（プリセットメモリー）。登録した放送局をかたんに受信できます。

1 SRC/OFFボタンを押して、ソースをTUNERにする

→「基本的な操作」10ページ

2 BANDボタンを押して、登録するバンドを選ぶ

3 ◀ボタンまたは▶ボタンを押して、登録する放送局を選ぶ

📌 ご注意

- 左右キーを押したときの機能がPCH（登録した放送局の選択）に設定されているときは、MAN（手動選局）に切り換える必要があります（→「左右キーの機能を設定する」18ページ）。

4 1/∧～6/⇨ボタンの1つを長く押して放送局を登録する

登録処理中にプリセット番号が点滅します。登録が完了すると、プリセット番号の点滅が終わり、その局の放送を受信します。

登録した放送局を呼び出す

BSMやプリセットメモリーで登録した放送局をかたんに受信できます。

1 SRC/OFFボタンを押して、ソースをTUNERにする

→「基本的な操作」10ページ

2 BANDボタンを押して、バンドを選ぶ

3 1/∧～6/⇨ボタンを押して、登録した放送局を受信する

📝 メモ

- ◀または▶ボタンを押して、順番に受信することもできます（→「ラジオのふだんの操作」11ページ）。

ラジオを聞く

表示を切り換える

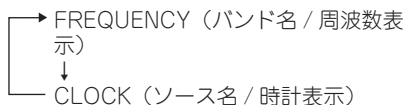
お好みの画面表示に切り換えることができます。

1 SRC/OFFボタンを押して、ソースをTUNERにする

→「基本的な操作」10ページ

2 DISP/TIボタンを押して、表示を切り換える

押すたびに次の順序で切り換わります。



オーディオ調節メニューを切り換える

「前後の音量バランスを調節する」などの音質調節機能を使うときは、オーディオ調節メニューで操作します。

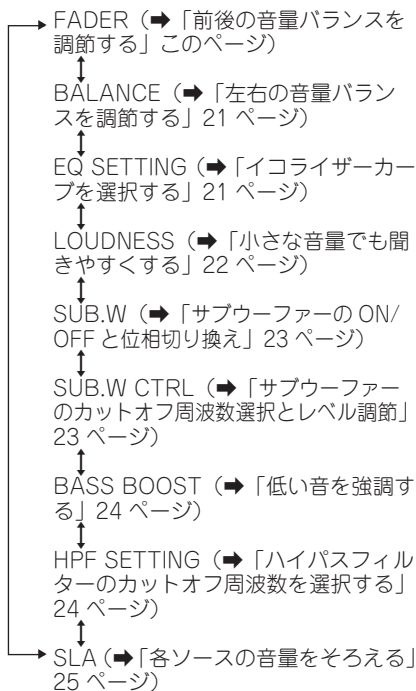
1 ロータリーコマンダーを押して、メインメニューを表示する

2 ロータリーコマンダーを回して、AUDIOを選ぶ

3 ロータリーコマンダーを押して、オーディオ調節メニューを表示する

4 ロータリーコマンダーを回して、機能を切り換える

次の順序で切り換わります。



メモ

- ふだんの再生画面に戻るには、BAND ボタンを押します (30 秒間、何も操作しないと自動的にふだんの再生画面に戻ります)。

ご注意

- ラジオの FM を聞いているときは、SLA には切り換わりません。
- 交通情報を受信しているときは、FADER と BALANCE のみ選択できます。
- SUB.W を OFF に設定しているときは、SUB.W CTRL には切り換わりません。
- 初期設定メニューで REAR-SP (→「リアスピーカー出力を設定する」26 ページ) を SW に設定しているときは、FADER には切り換わりません。
- 初期設定メニューで REAR-SP (→「リアスピーカー出力を設定する」26 ページ) を FUL に設定しているときは、SUB.W と SUB.W CTRL には切り換わりません。

前後の音量バランスを調節する

FADER

前後のスピーカーからの音量バランスを調節できます。より自然に聞こえるバランスに設定してください。

1 ロータリーコマンダーを操作して、FADERに切り換える

→「オーディオ調節メニューを切り換える」このページ

2 ロータリーコマンダーを押して、FADERを選ぶ

現在の設定内容が表示されます。

3 ロータリーコマンダーを回して、音量バランスを調節する

前を強める：右に回す
後ろを強める：左に回す

前後のバランスは、F15 ~ R15 の範囲で調節できます。

4 BANDボタンを押す

ふだんの再生画面に戻ります。

左右の音量バランスを調節する

BALANCE

左右のスピーカーからの音量バランスを調節できます。より自然に聞こえるバランスに設定してください。

1 ロータリーコマンドーを操作して、BALANCEに切り換える

→「オーディオ調節メニューを切り換える」20ページ

2 ロータリーコマンドーを押して、BALANCEを選ぶ

現在の設定内容が表示されます。

3 ロータリーコマンドーを回して、設定内容を切り換える

右を強める：右に回す
左を強める：左に回す

左右のバランスは、L15～R15の範囲で調節できます。

4 BANDボタンを押す

ふだんの再生画面に戻ります。

イコライザーカーブを選択する

EQ SETTING

あらかじめ用意されたイコライザーカーブを選ぶだけで、好みの音質にできます。

1 ロータリーコマンドーを操作して、EQ SETTINGに切り換える

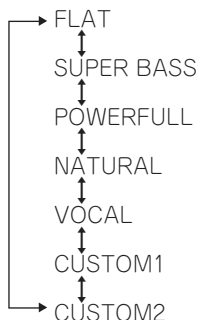
→「オーディオ調節メニューを切り換える」20ページ

2 ロータリーコマンドーを押して、EQ SETTINGを選ぶ

現在の設定内容が表示されます。

3 ロータリーコマンドーを回して、イコライザーカーブを切り換える

次の順序で切り換わります。



メモ

- FLATは、イコライザーによる音の補正がされていません。
- イコライザーカーブはEQ ボタンを押して切り換えることもできます（→「よく使う機能をボタンですぐに操作する」13ページ）。

4 ロータリーコマンドーを押して、設定を決定する

メモ

- ロータリーコマンドーを押す前に、オーディオメニューまたはふだんの再生画面に戻っても、設定は決定されます。

5 BANDボタンを押す

ふだんの再生画面に戻ります。

イコライザーカーブを調節する

CUSTOM1、CUSTOM2のイコライザーカーブを補正できます。これにより、よりお好みであった音質を作り出すことができます。CUSTOM1には、調節したイコライザーカーブがソースごとに記憶されます。CUSTOM2には、すべてのソースに共通したイコライザーカーブとして記憶されます。

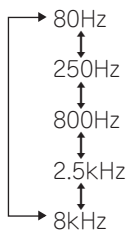
1 「イコライザーカーブを選択する」手順3で、CUSTOM1またはCUSTOM2に切り換える

2 ロータリーコマンダーを押して、CUSTOM1またはCUSTOM2を選ぶ

現在の設定内容が表示されます。

3 ロータリーコマンダーを回して、設定する周波数帯域を切り換える

次の順序で切り換わります。



4 ロータリーコマンダーを押して、設定する周波数帯域を選ぶ

現在の設定内容が表示されます。

5 ロータリーコマンダーを回して、レベルを調節する

レベルを大きくする：右に回す
レベルを小さくする：左に回す

レベルは、-6 ~ +6の範囲で調節できます。

6 BANDボタンを押す

ふだんの再生画面に戻ります。

小さな音量でも聞きやすくする

LOUDNESS

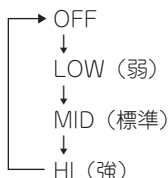
小さな音量で音楽を聞いていると、低音・高音が不足しているように感じる場合があります。LOUDNESSを使うと、この不足感を補って、音を聞きやすくできます。

1 ロータリーコマンダーを操作して、LOUDNESSに切り換える

➔ 「オーディオ調節メニューを切り換える」20ページ

2 ロータリーコマンダーを押して、LOUDNESSの効果を選択する

押すたびに次の順序で切り換わります。



メモ

- ロータリーコマンダーを押す前に、オーディオ調節メニューまたはふだんの再生画面に戻っても、設定は決定されます。

3 BANDボタンを押す

ふだんの再生画面に戻ります。

サブウーファースの ON / OFF と位相切り換え

SUB.W

本機にサブウーファースを接続して使用する場合は、サブウーファースの設定を ON にする必要があります。ON にしたあと、サブウーファースから出力される音が自然に聞こえるように、位相を切り換えてください。

位相切り換えとは

- サブウーファースから出力される音の中には、フロント/リアスピーカーから出力される音と同じ周波数帯域の成分が含まれています。車内条件により、これらの音の位相が反転（干渉）し、打ち消し合ってしまうことがあります。この現象を防ぐために、車内条件に合わせて位相を正相または逆相に切り換えてください。

正相：サブウーファースの音が、フロント/リアスピーカーと同時に出力される

逆相：サブウーファースの音が、フロント/リアスピーカーとタイミングをずらして出力される

1 ローターコマンドを操作して、SUB.W に切り換える

→ 「オーディオ調節メニューを切り換える」 20 ページ

2 ローターコマンドを押して、サブウーファースの位相を選ぶ

次の順序で切り換わります。



3 BAND ボタンを押す

ふいだんの再生画面に戻ります。

サブウーファースのカットオフ周波数選択とレベル調節

SUB.W CTRL

サブウーファースから出力される低音域（カットオフ周波数）と出力レベル、スロープを設定します。他のスピーカーから出力される音とのつながりが自然になるように設定してください。

カットオフ周波数とは

- 選んだ周波数よりも上の周波数（または下の周波数）の音域をカットします。このときに選択する周波数を、カットオフ周波数と呼びます。サブウーファースのカットオフ周波数の設定では、カットオフ周波数よりも上の音域がカットされ、低音域だけが出力されます。また、カットオフ周波数以下の音域の出力レベルを上げることで、低音をさらに強調させることもできます。

スロープとは

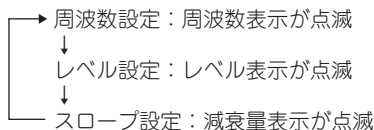
- スロープは、周波数が 1 オクターブ高く（または低く）なったときに、信号が何 dB 減衰するかを表す値です（単位：dB/oct.）。傾きを急にすると、信号が減衰する割合が大きくなります。

1 ローターコマンドを操作して、SUB.W CTRL に切り換える

→ 「オーディオ調節メニューを切り換える」 20 ページ

2 ローターコマンドを押して、設定内容を切り換える

押すたびに次の順序で切り換わります。



3 ロータリーコマンドーを回して、サブウーファー調整をする

■周波数設定を調節するとき

高い周波数を選ぶ：右に回す
低い周波数を選ぶ：左に回す

カットオフ周波数は、OFF、50 Hz、63 Hz、80 Hz、100 Hz、125 Hz、160 Hz、200 Hz の中から選べます。

■レベルを調節するとき

レベルを大きくする：右に回す
レベルを小さくする：左に回す

レベルは、 $-24 \sim +6$ の範囲で調節できます。

■スロープを調節するとき

減衰量を小さくする：右に回す
減衰量を大きくする：左に回す

減衰量は、 -12 dB/oct. 、 -6 dB/oct. の中から調節できます。

4 BANDボタンを押す

ふだんの再生画面に戻ります。

低い音を強調する

BASS BOOST

低音域を強調することができます。バスブースターのレベルを上げると、迫力のある低音を再生できます。

1 ロータリーコマンドーを操作して、BASS BOOSTに切り換える

→「オーディオ調節メニューを切り換える」20 ページ

2 ロータリーコマンドーを押して、BASS BOOSTを選ぶ

現在の設定内容が表示されます。

3 ロータリーコマンドーを回して、レベルを調節する

レベルを大きくする：右に回す
レベルを小さくする：左に回す

レベルは、 $0 \sim +6$ の範囲で調節できます。

4 BANDボタンを押す

ふだんの再生画面に戻ります。

ハイパスフィルターのカットオフ周波数を選択する

HPF SETTING

選んだ周波数より低い周波数の音が各スピーカーから出力されなくなります。フロントスピーカー、リアスピーカーのそれぞれで好み
の周波数を設定できます。(スロープを Pass (0 dB/oct.) に設定するとオーディオ信号はフィルター回路を回避するため、ハイパスフィルターは効果がなくなります。)

？ ハイパスフィルター (HPF) とは

- ハイパスフィルターは、設定した周波数から下の音域（低域）をカットして、高域を通すフィルターです。ハイパスフィルターを ON にすることにより、サブウーファーとの音のつながりを調節できます。

✎ カットオフ周波数について

- 選んだ周波数より高い音域がフロントまたはリアスピーカーから出力されます。

✎ スロープについて

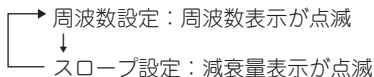
- スロープは、周波数が1オクターブ高く（または低く）なったときに、信号が何 dB 減衰するかを表す値です（単位：dB/oct.）。傾きを急にすると、信号が減衰する割合が大きくなります。

1 ロータリーコマンドーを操作して、HPF SETTINGに切り換える

→「オーディオ調節メニューを切り換える」20 ページ

2 ローターコマンドーを押して、設定内容を切り換える

押すたびに次の順序で切り換わります。



3 ローターコマンドーを回して、ハイパスフィルター調節をする

■周波数設定を調節するとき

高い周波数を選ぶ：右に回す
低い周波数を選ぶ：左に回す

カットオフ周波数は、OFF、50 Hz、63 Hz、80 Hz、100 Hz、125 Hz、160 Hz、200 Hz の中から選べます。

■スロープを調節するとき

減衰量を小さくする：右に回す
減衰量を大きくする：左に回す

減衰量は、 -12 dB/oct. 、 -6 dB/oct. の中から調節できます。

4 BANDボタンを押す

ふだんの再生画面に戻ります。

各ソースの音量をそろえる

SLA

ソースを切り換えたときに、ソースごとの音量が違うことがあります。SLA を使うと、FM の音量を基準にして各ソースの音量をそろえることができます。

SLA とは

- SLA は、「Source Level Adjuster (ソースレベル アジャスター)」の略です。

1 ローターコマンドーを操作して、SLAに切り換える

→「オーディオ調節メニューを切り換える」20 ページ

2 ローターコマンドーを押して、SLAを選ぶ

現在の設定内容が表示されます。

📌 ご注意

- ラジオのFMを聞いているときは、SLAには切り換わりません。

3 ローターコマンドーを回して、レベルを調節する

レベルを大きくする：右に回す
レベルを小さくする：左に回す

レベルは $-4 \sim +4$ の範囲で設定できます。

4 ローターコマンドーを押して、設定を決定する

📝 メモ

- ロータリーコマンドーを押す前に、オーディオ調節メニューまたはふだんの再生画面に戻っても、設定は決定されます。

5 BANDボタンを押す

ふだんの再生画面に戻ります。

初期設定メニューを切り換える

「リアスピーカー出力を設定する」の機能は、初期設定メニューで操作します。初期設定メニューは、電源を OFF にした状態で操作します。

1 SRC/OFFボタンを長く押し、本機の電源をOFFにする

2 ロータリーコマンダーを長く押し、メインメニューを表示する

3 ロータリーコマンダーを回して、INITIALを選ぶ

4 ロータリーコマンダーを押して、初期設定メニューを表示する

「REAR-SP」と表示されます (→「リアスピーカー出力を設定する」このページ)。



メモ

- 初期設定メニューを解除するときは、BAND ボタンを押します (初期設定メニューを解除すると、電源が OFF になります)。

リアスピーカー出力を設定する

REAR-SP

リアスピーカー出力に接続するスピーカーの種類に合わせて、リアスピーカーの出力方法を選べます。

- ① リアスピーカーを接続する：
「FUL」に設定します
- ② サブウーファーを接続する：
「SW」に設定します

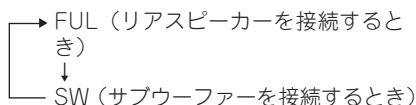
1 ロータリーコマンダーを操作して、REAR-SPにする

→「初期設定メニューを切り換える」このページ

2 ロータリーコマンダーを押して、REAR-SPを選ぶ

3 ロータリーコマンダーを押して、設定を切り換える

押すたびに次の順序で切り換わります。



4 BANDボタンを押す

電源が OFF になります。

システムメニューを切り換える

「時計を合わせる」などのシステム関連の設定をするときは、システムメニューで操作します。

電源が OFF の状態から操作する

1 SRC/OFFボタンを長く押して、本機の電源をOFFにする

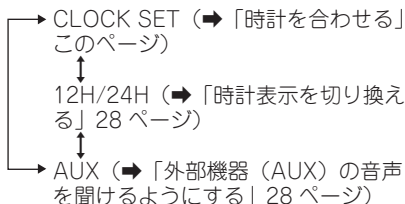
2 ロータリーコマンダーを長く押して、メインメニューを表示する

3 ロータリーコマンダーを回して、SYSTEMを選ぶ

4 ロータリーコマンダーを押して、システムメニューを表示する

5 ロータリーコマンダーを回して、機能を切り換える

次の順序で切り換わります。



⚠️ ご注意

- 車によっては、手順5で「DEMO OFF」と表示される場合があります。この表示がされるときは、電源がOFFのときや何も操作しないときに、ファンクションやエンターテインメントの画面が表示されます。次の手順で「DEMO OFF」を非表示にしてください。
 - 1 手順5でDEMO OFFに切り換え、ロータリーコマンダーを押す
 - 2 ロータリーコマンダーを回してYESに切り換える
 - 3 ロータリーコマンダーを押す

✎ メモ

- システムメニューを解除するときは、BAND ボタンを押します (システムメニューを解除すると、電源がOFFになります)。

電源が ON の状態で操作する

1 ロータリーコマンダーを押して、メインメニューを表示する

2 ロータリーコマンダーを回して、SYSTEMを選ぶ

3 ロータリーコマンダーを押して、システムメニューを表示する

4 ロータリーコマンダーを回して、機能を切り換える

機能の切り換えについては、(→「電源がOFFの状態から操作する」このページ)。

✎ メモ

- ふだんの再生画面に戻るには、BAND ボタンを押します (30秒間、何も操作しないと自動的にふだんの再生画面に戻ります)。

時計を合わせる

CLOCK SET

時計を表示するために、時計を合わせておきます。

1 ロータリーコマンダーを操作して、CLOCK SETにする

→「システムメニューを切り換える」このページ

2 ロータリーコマンダーを押して、CLOCK SETを選ぶ

現在の設定内容が表示されます。

3 ロータリーコマンドを押して、時と分を切り換える

4 ロータリーコマンドを回して、時刻を合わせる

時刻を進める：右に回す
時刻を戻す：左に回す

分を調整すると、0秒からカウントが始まります。

5 BANDボタンを押す

電源がOFFの状態から操作した場合は、再度電源がOFFになります。電源がONの状態では操作した場合は、ふだんの再生画面に戻ります。

時計表示を切り換える

12H/24H

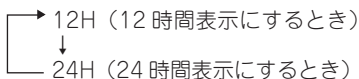
12時間表示、24時間表示を切り換えます。

1 ロータリーコマンドを操作して、12H/24Hにする

➔「システムメニューを切り換える」
27ページ

2 ロータリーコマンドを押して、設定を切り換える

押すたびに次の順序で切り換わります。



3 BANDボタンを押す

電源がOFFの状態から操作した場合は、再度電源がOFFになります。電源がONの状態では操作した場合は、ふだんの再生画面に戻ります。

外部機器 (AUX) の音声を聞けるようにする

AUX

本機にポータブル音楽再生機器や、VTRなどの外部機器を接続して、その音声を聞くことができます。

外部機器を接続するには

- 本機に外部機器を接続するには、本機前面にあるAUX入力端子に、3.5 mm φステレオミニジャックを差し込みます。

1 ロータリーコマンドを操作して、AUXにする

➔「システムメニューを切り換える」
27ページ

2 ロータリーコマンドを押して、外部機器設定をONにする

もう一度押すと、OFFになります。

3 BANDボタンを押す

電源がOFFの状態から操作した場合は、再度電源がOFFになります。電源がON状態では操作した場合は、ふだんの再生画面に戻ります。

メモ

- 工場出荷時は、AUXがONに設定されています。AUXを使用しない場合は、OFFに設定してください。

交通情報を受信する

高速道路などで放送されている交通情報ラジオを、瞬時に受信できます。交通情報は、電源 OFF のときでも、どのソースからでも受信できます。

1 DISP/TI ボタンを長く押し、交通情報を受信する

もう一度長く押すと、交通情報を受信する前の状態に戻ります。

2 ◀ ボタンまたは ▶ ボタンを押す

交通情報の周波数を切り換えます。

- 1 620 kHz を選ぶ： ◀ ボタンを押す
- 1 629 kHz を選ぶ： ▶ ボタンを押す

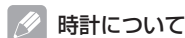


メモ

- 交通情報を受信しているときに音量を調節すると、交通情報用の音量として設定できます。

時計を表示する

本機の電源が OFF のときに、ディスプレイに時計を表示できます。



時計について

- 時計を合わせるには (→ 「時計を合わせる」 27 ページ)

1 DISP/TI ボタンを押して、時計を表示する

もう一度押すと、時計表示が解除されます。

ボタンとディスプレイの明るさを調節する

1 ロータリーコマンダーを押し、メインメニューを表示する

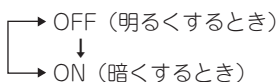
2 ロータリーコマンダーを回して、ILLUMINATION を選ぶ

3 ロータリーコマンダーを押し、イルミネーションメニューを表示する

「DIMMER」と表示されます。

4 ロータリーコマンダーを押し、設定を切り換える

押すたびに次の順序で切り換わります。



メモ

- ◀/DIMMER ボタンを長く押ししても、明るさを調節できます。

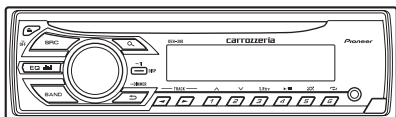
●接続・取り付け上のご注意

- 車への取り付けは、必ず本書と、「安全上のご注意」に従って正しく行ってください。指定以外の取り付け方法や、指定以外の部品を使用すると、事故やケガの原因となる場合があります。この場合は、当社では一切の責任を負いかねます。
- 別売製品の接続および取り付けについては、別売製品に付属の説明書も併せてご覧ください。

接続・取り付け部品を確認する

●本体関係

本体 × 1



トラスネジ (5 mm × 8 mm) × 4



皿ネジ (5 mm × 9 mm) × 4



●コード関係

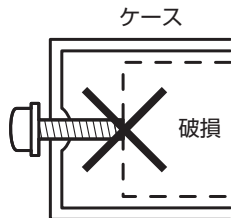
電源コード × 1



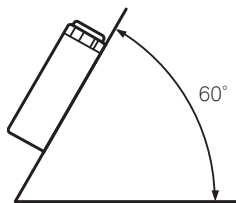
取り付けの前に知ってほしいこと

●取り付け上のご注意

- 必ず本機および取付キットに付属の部品を指定通りに使用してください。指定以外の部品を使用すると、機器内部の部品をいためたり、しっかりと固定できず外れたりして危険です。



- 本機の性能を十分に発揮するために、水平に対して 60 度以内の角度で取り付けてください。



●取り付けのポイント

取り付け、固定する前に

- まず仮接続を行い、本機が正常に動作することを確認してから、取り付けを行ってください。正常に動作しない場合は、接続に間違いがないか、もう一度チェックしてください。

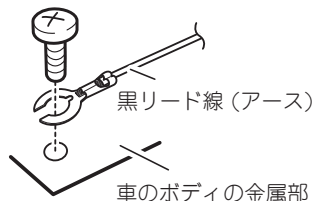
取付キットを別売しています

- 車種や年式によっては、別売のパイオニア製取付キットを使用しないと、取り付けられないこともあります。当社では車種別専用取付キットを用意していますので、販売店にご相談ください。
- ダッシュボード下へ取り付ける場合は、D サイズ用汎用取付ケースやアンダーダッシュ用取付キットをご使用ください。

接続の前に知ってほしいこと

●接続上のご注意

- 本機の黒リード線（アース）を必ず最初に車のボディの金属部に確実に接続してください。



- 赤リード線（アクセサリ電源）は、常にバッテリーから電源が供給される電源回路には、接続しないでください。接続すると車のバッテリーが消耗してしまいます。
- 本機のアンプには BPTL という回路を使用しています。スピーカーのリード線をアースに接続したり、複数のスピーカーの(-)リード線を、共通にして接続したりしないでください。
- 本機と組み合わせるスピーカーには、最大入力 50 W 以上のハイパワー用で、インピーダンスが 4 Ω から 8 Ω のものを使用してください。規格以外のスピーカーのご使用は、スピーカーの発火・発煙・破損の原因となります。
- 黒リード線（アース）は、パワーアンプなどの消費電流が大きい製品のアースとは別々に取り付けてください。まとめて取り付けると、ネジが緩んだり外れたりしたとき、製品の発煙・故障の原因となるおそれがあります。
- ガラスアンテナ車は、アンテナプースターの電源を、必ず本機の青 / 白リード線（アンテナコントロール）に接続してください。接続を忘れるとラジオが受信できません。

アンテナプースターの電源の位置は、車種によって異なります。（ラジオが ON にならないと、プースターが ON にならない車もあります。）詳しくは、取り付け技術のある販売店にご相談ください。

●接続のポイント

ノイズ防止のために

- アンテナコードは、スピーカーコードおよび電源リード線からできるだけ離して配置してください。

電源配線キットを別売しています

- システム全体の消費電流が大きくなる場合は、バッテリーから直接電源をとることをおすすめします。当社では、電源配線キット「RD-221」を別売していますので、販売店にご相談ください。

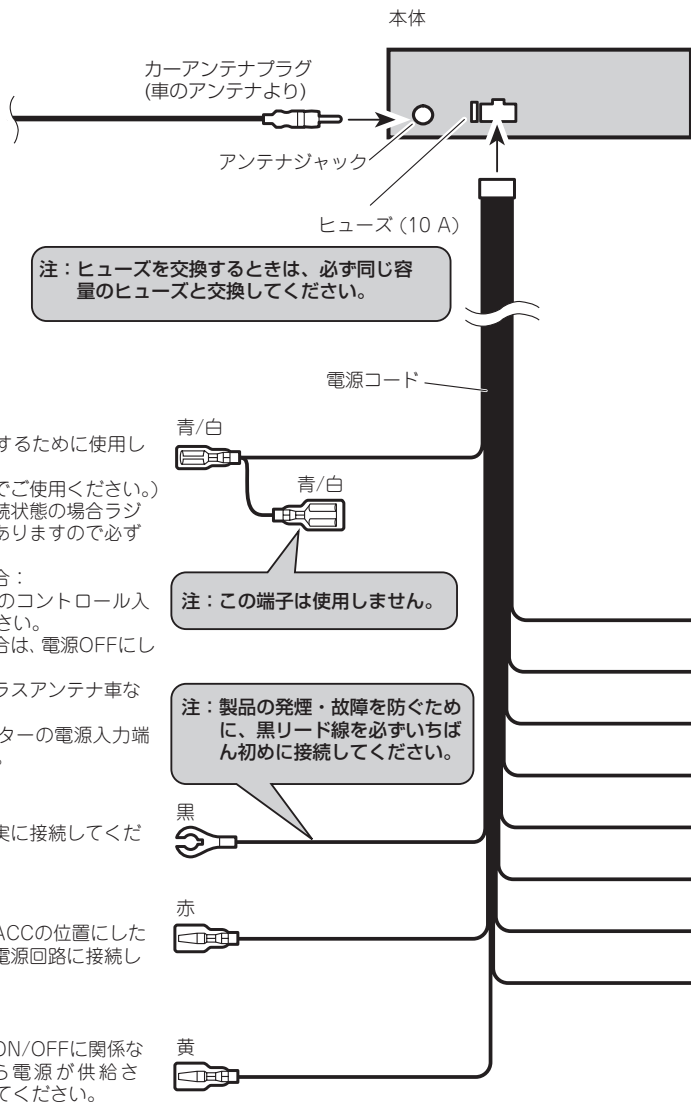
●バッテリー交換時のご注意

- 車のバッテリー交換などで本機に電源が供給されなくなると、本機は初期状態に戻ります。本機が初期状態に戻ると、ラジオのプリセットメモリー、時計、オーディオ調節などの設定内容は消去されてしまいます。ラジオのプリセットメモリー（→「放送局を1局ずつ登録する」19 ページ）や時計調節（→「時計を合わせる」27 ページ）を再設定してください。オーディオ調節の設定内容などは、メモしておくことをおすすめします。再設定の方法については、それぞれのページを参照してください。

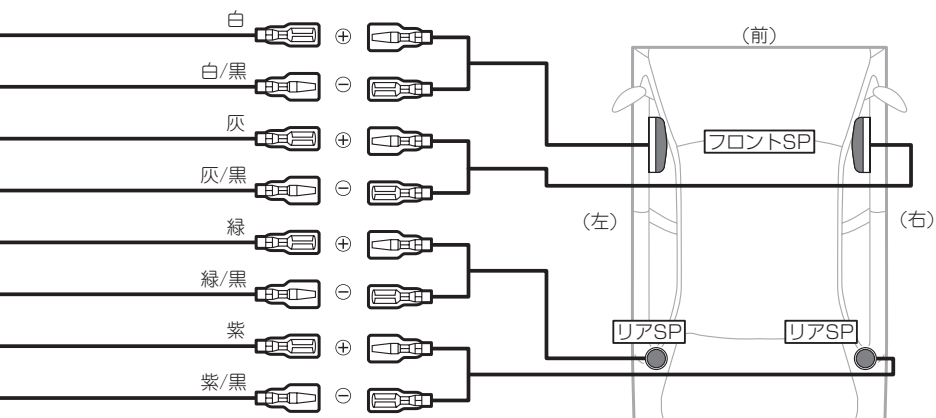
接続する

本機のスピーカーリード線にリアスピーカーを接続する場合

詳しくはお買い上げの販売店にお問い合わせください。



注：赤、黄リード線は車のヒューズユニットを通した後の端子に接続してください。

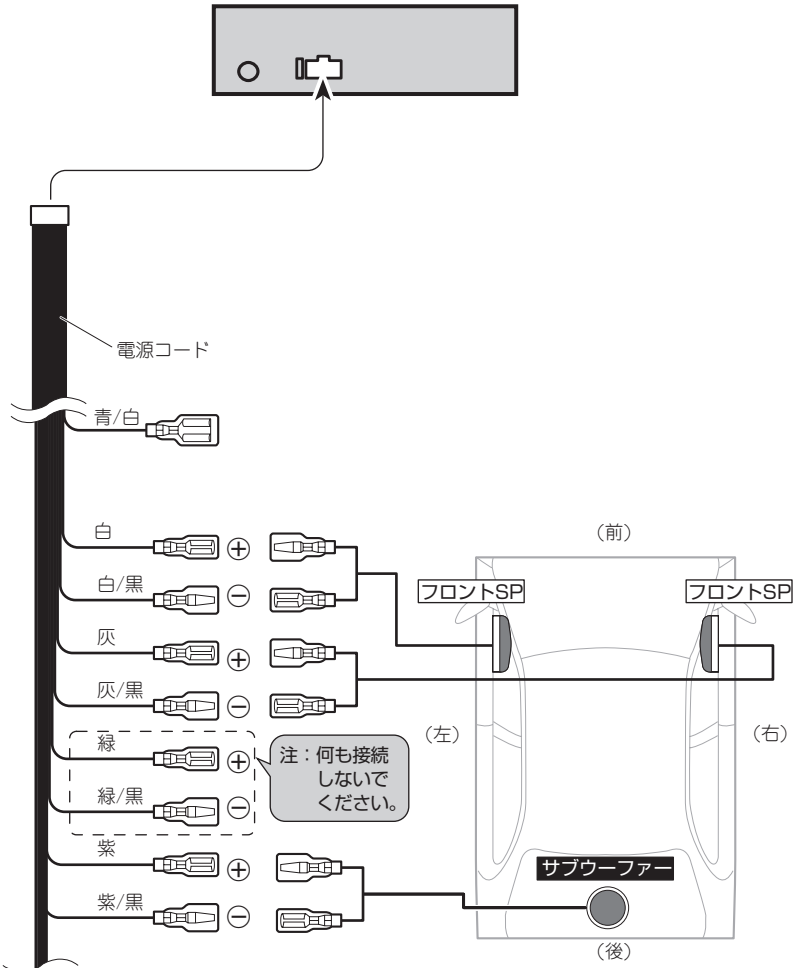


注：・スピーカーを接続しないスピーカーリード線には、何も接続しないでください。
 ・リアスピーカー出力に接続するスピーカーに合わせて、REAR-SP (⇒26ページ) の設定を切り換えてください。

本機のスピーカーリード線にサブウーファーを接続する場合 (1)

詳しくはお買い上げの販売店にお問い合わせください。

接続・取り付けと動作確認

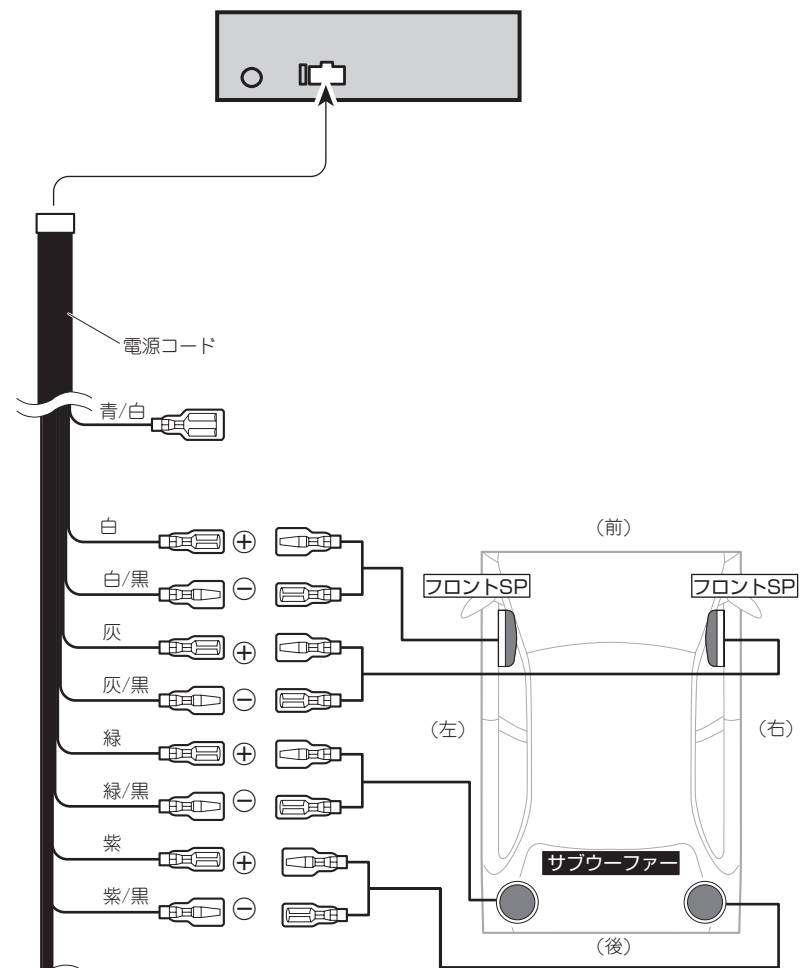


(⇒「本機のスピーカーリード線にリアスピーカーを接続する場合」32ページ)

最大出力 50 W × 1ch/4 Ω

本機のスピーカーリード線にサブウーファーを接続する場合 (2)

詳しくはお買い上げの販売店にお問い合わせください。



(⇒「本機のスピーカーリード線にリアスピーカーを接続する場合」
32ページ)

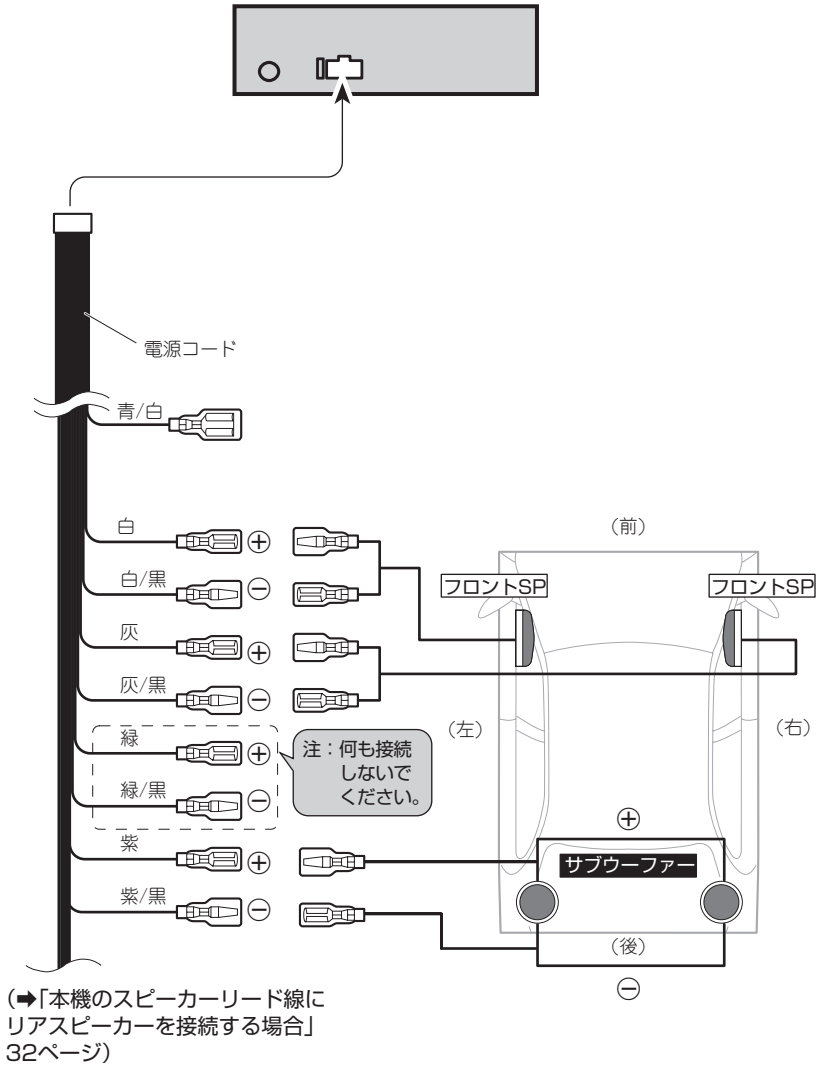
接続・取り付けと動作確認

最大出力 50 W × 2ch/4 Ω

本機のスピーカーリード線にサブウーファーを接続する場合 (3)

詳しくはお買い上げの販売店にお問い合わせください。

接続・取り付けと動作確認



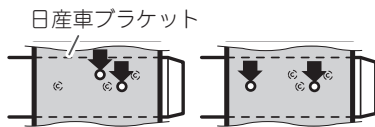
ここでは、サブウーファー (4 Ω) を並列に接続してサブウーファー (2 Ω) として使用しています。

最大出力 70 W × 1ch/2 Ω

本体を取り付ける

取り付け例（トヨタ車、日産車への取り付け）です。

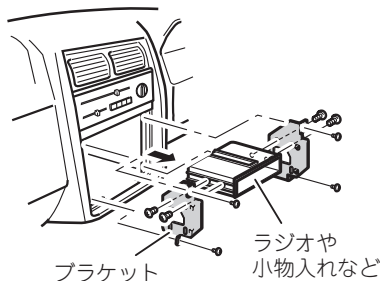
■日産車の場合



1 車のラジオ、小物入れなどを取り外す

ラジオ、小物入れなどを取り外し、それらを留めているブラケットを取り外します。

そのブラケットを使用して、本機を取り付けます。



📌 ご注意

- 取り外すネジの位置などは車種により異なります。詳しくは、お買い上げの販売店、または、最寄りのディーラーにお問い合わせください。

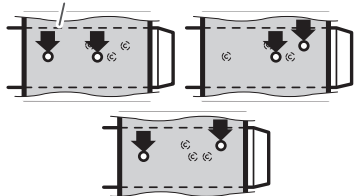
2 ネジ留めする位置を確認する

ブラケットを本機に重ねて、ネジ穴が合う位置を確認してください。

ブラケットのネジ穴は次のタイプがあります。

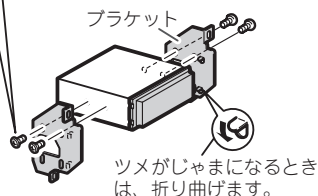
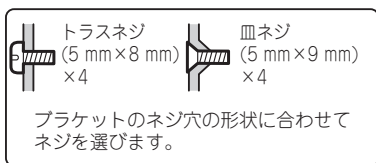
■トヨタ車の場合

トヨタ車ブラケット



3 ブラケットを付属のネジで取り付ける

左側、右側、それぞれ2カ所ずつ、付属のネジでネジ留めして、元通り車に取り付けます。



フロントパネルの取り外しかた／取り付けかた

フロントパネルを取り外すことができます（デタッチャブル機構）。操作方法は（➡ 8 ページ）

動作を確認する

接続・取り付けが終わったら、次の操作を行って、本機が正常に動作することを確認してください。

1 接続・取り付けをもう一度確認する



確認

- 接続・取り付けに誤りがないか、各コネクタは確実に接続されているか、もう一度、目で見えて確認してください。

2 車のエンジンをかける



3 本機の動作を確認する

確認後にセットアップメニューが自動で起動しますので、設定を行ってください (⇒ 「初めて本体を使用する際の設定」7 ページ)。

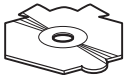
CD の正しい使いかた

●使用できる CD について

- 次のマークが付いているコンパクトディスク（光学式デジタルオーディオディスク）をご使用ください。



- 本機は音楽 CD 規格に準拠して設計されています。コピーコントロール CD などの CD 規格外ディスクの動作保証及び性能保証は致しかねます。
- ひび、キズ、そりのある CD は使用しないでください。
- 特殊形状のディスクは、使用しないでください。故障の原因になります。



- 音楽用 CD レコーダーまたはパソコンで記録した CD-R / CD-RW ディスクは、ディスクの特性やキズ・汚れ、または本機内部のレンズの汚れ・露などにより、本機では再生できない場合があります。
- パソコンで記録したディスクは、アプリケーションの設定および環境によって再生できないことがあります。（詳細は、アプリケーションの発売元にお問い合わせください。）
- 直射日光や高温など、車内での保管状況により、CD-R / CD-RW ディスクは再生できなくなる場合があります。
- CD-R / CD-RW ディスクに記録されているタイトルなどの文字情報は、本機では表示されない場合があります。（音楽データ（CD-DA）再生時）
- ファイナライズされていない CD-R / CD-RW ディスクには対応していません。
- CD-R / CD-RW ディスクの取り扱いについては、ディスクの説明書や注意書きを十分お読みください。
- レーベル面に印刷ができるディスクを使用するときは、ディスクの説明書や注意書きを確認してください。ディスクに

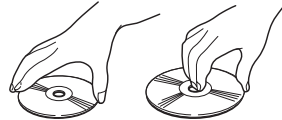
よっては、挿入または取り出しができないものがあります。そのようなディスクを使用すると、本機の故障の原因になります。

●「DualDisc」の再生について

- 「DualDisc」は、片面に DVD 規格準拠の映像やオーディオが、もう片面に CD 再生機での再生を目的としたオーディオがそれぞれ収録されています。
- DVD 面ではないオーディオ面は、一般的な CD の物理的規格に準拠していないために再生できないことがあります。
- 「DualDisc」を再生機器に挿入をしたり、取り出しをしたりするとき再生面の反対側の面に傷がつく場合があります。傷が付いた面は再生すると不具合がでる場合があります。
- ディスクを取り出せないといった不具合が起こる可能性がありますので「DualDisc」はご使用にならないください。
- 「DualDisc」の仕様や規格などの詳細に関しましては、ディスクの発売元または販売元にお問い合わせください。

●取り扱い上のご注意

- CD は、信号記録面（虹色に光っている面）をさわらないように持ってください。



- CD にキズを付けないでください。
- CD にシールなどを貼らないでください。

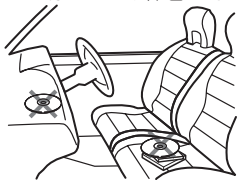


- ディスクには、市販のラベルなどを貼りつけないでください。
 - ディスクに反りが生じて、再生できなくなる原因になります。
 - 再生中にラベルがはがれると、ディスクが取り出せなくなり、本機の故障の原因になります。

次のページに続く

●保管上のご注意

- ・直射日光の当たるところや高温になるところには、CD を保管しないでください。



- ・CD がぞらないように、必ずケースに入れて保管してください。

●お手入れについて

- ・CD が汚れたときは、柔らかいきれいな布でCDの内周から外周方向へ軽くふいてください。



- ・アナログ式レコード用のクリーナー、静電気防止剤などは使用しないでください。またベンジンやシンナーなどの揮発性の薬品をかけないでください。



●CD 再生の環境について

- ・走行中、振動のショックで音飛びを起こすことがあります。
- ・寒いとき、ヒーターを入れた直後にCD再生を始めると、本機内部の光学系レンズやCDに露が生じて、正常な再生ができないことがあります。このようなときは、1時間ほど放置して自然に露がとれるのを待ちください。CDに付いた露は柔らかい布でふいてください。



メモ

- 製品設計上配慮していますが、機構上あるいは使用環境・ディスクの取り扱いなどにより、ディスク面に実使用上支障のない程度のキズが付くことがあります。これは、製品の故障ではありません。一般的な消耗としてご理解ください。

WMA / MP3 / WAV ファイルについて

●WMA とは？

- ・「Windows Media™ Audio」の略で、米国 Microsoft Corporation によって開発された音声圧縮技術です。WMA データは、Windows Media Player Ver. 7以降を使用してエンコードできます。



ご注意

- WMA ファイルをエンコードしたアプリケーションによっては、正常に動作しないことがあります。
- WMA ファイルをエンコードした Windows Media Player のバージョンによっては、アルバム名などの文字情報が正しく表示されないことがあります。
- 本機で画像データを含む WMA ファイルを再生する場合、再生が始まるまでに時間がかかることがあります。

●再生できる WMA ファイルについて



ご注意

- WMA ファイルに名前を付けるときは、ファイル名のあとに拡張子 (.wma) を付けてください。
- 本機は、拡張子 (.wma) が付いているファイルを WMA ファイルとして再生します。雑音や故障の原因となりますので、WMA ファイル以外には拡張子 (.wma) を付けないでください。

- ・再生可能な WMA ファイルのサンプリング周波数は 32 kHz ~ 48 kHz です。
- ・WMA ファイルは一般的に、ビットレートが高いほど音質が良くなります。本機は、CBR (固定ビットレート) で 48 kbps ~ 320 kbps、VBR (可変ビットレート) で 48 kbps ~ 384 kbps の WMA ファイルの再生に対応しています。ただし、ある一定の音質で音楽を楽しむためには、より高いビットレートで記録することをおすすめします。
- ・デジタル著作権管理 (DRM) で保護されたファイルは、再生がスキップされます。「SKIPPED」と表示されます。

- ディスク内のすべてのファイルがデジタル著作権管理 (DRM) で保護されている場合、そのディスクは再生できません。「PROTECT」と表示されます。
- この製品は、下記の形式には対応していません。
 - Windows Media Audio Professional (5.1ch)
 - Windows Media Audio Lossless (可逆圧縮)
 - Windows Media Audio Voice

●MP3 とは？

- 「MPEG Audio Layer-3」の略で、音声圧縮技術に関する標準フォーマットです。

●再生できる MP3 ファイルについて

ご注意

- MP3 ファイルに名前を付けるときは、ファイル名のあとに拡張子 (.mp3) を付けてください。
- 本機は、拡張子 (.mp3) が付いているファイルを MP3 ファイルとして再生します。雑音や故障の原因となりますので、MP3 ファイル以外には拡張子 (.mp3) を付けないでください。
- ID3 tag の Ver. 1.0 / 1.1 / 2.2 / 2.3 / 2.4 のアルバム名、曲名、およびアーティスト名の表示に対応しています。なお、ID3 tag の Ver. 1.X と Ver. 2.X が混在している場合は、Ver. 2.X が優先されます。
- サンプリング周波数が 32 kHz、44.1 kHz、48 kHz の MP3 ファイルを再生する場合のみ、エンファシスに対応します。なお、再生可能なサンプリング周波数は、8 kHz ~ 48 kHz です。
- MP3 ファイルは一般的に、ビットレートが高いほど音質が良くなります。本機は、CBR (固定ビットレート) では 8 kbps ~ 320 kbps の MP3 ファイルの再生に対応しています。また、VBR (可変ビットレート) の再生にも対応しています。ただし、ある一定の音質で音楽を楽しむためには、128 kbps 以上のビットレートで記録することをおすすめします。
- m3u のプレイリストには対応していません。
- MP3i (MP3 interactive) フォーマット、および MP3 PRO フォーマットには対応していません。

●WAV とは？

- 「Waveform」の略で、Windows® での標準音声フォーマットです。

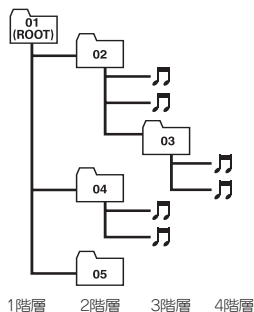
●再生できる WAV ファイルについて

ご注意

- WAV ファイルに名前を付けるときは、ファイル名のあとに拡張子 (.wav) を付けてください。
- 本機は、拡張子 (.wav) が付いているファイルを WAV ファイルとして再生します。雑音や故障の原因となりますので、WAV ファイル以外には拡張子 (.wav) を付けないでください。
- 本機は、LPCM 形式および MS ADPCM 形式でエンコードされた WAV ファイルの再生に対応しています。
- 本機は、LPCM 形式では 16 kHz ~ 48 kHz、MS ADPCM 形式では 22.05 kHz ~ 44.1 kHz のサンプリング周波数で記録された WAV ファイルの再生に対応しています。
- 表示されるサンプリング周波数の桁は、すべてではないことがあります。
- WAV ファイルは一般的に、量子化ビット数が高いほど音質が良くなります。本機は、LPCM 形式で 8 bit または 16 bit、MS ADPCM 形式で 4 bit の量子化ビット数で記録された WAV ファイルの再生に対応しています。ただし、ある一定の音質で音楽を楽しむためには、より高い量子化ビット数で記録することをおすすめします。

ディスク内のフォルダーについて

- WMA / MP3 / WAV ファイルを収録した CD-R / CD-RW / CD-ROM のフォルダー構造は次の図のようになります。



- WMA / MP3 / WAV ファイルが記録された CD-R / CD-RW / CD-ROM の再生に対応しています。ISO9660 のレベル 1 / レベル 2 / 拡張フォーマット (Joliet, Romeo) に準拠して記録されたディスクが再生可能です。
- マルチセッション方式で記録したディスクの再生に対応しています。
- パケットライトには対応していません。
- ファイル名の最大表示文字数は、拡張子を含めて 32 文字です。また、フォルダー名の最大表示文字数は 32 文字です。
- 再生などの操作でフォルダーが選択される順番は、ライティングソフトで書き込まれた順番になります。ただし、ライティングソフトによっては、再生の順番を指定できるものもあります。
- 曲間 (トラック間) にブランクがない CD を、WMA / MP3 / WAV ファイルとして CD-R / CD-RW / CD-ROM に記録して再生した場合、曲間が音飛びのように聞こえます。
- フォルダー番号は本機が割り当てます。お客様が割り当てることはできません。
- CD-R / CD-RW / CD-EXTRA / MIXED-MODE CD ディスクに WMA / MP3 / WAV ファイルと音楽データ (CD-DA) が混在しているときは、WMA / MP3 / WAV ファイルと音楽データ (CD-DA) を切り換えて再生できます (➡「CD のふだんの操作」10 ページ)。この場合、再生は一番先頭の曲から始まります。

- WMA / MP3 / WAV ファイルを含まないフォルダーは認識しません。フォルダーの番号を表示せず、スキップします。
- 8階層までの WMA / MP3 / WAV ファイルの再生に対応しています。ただし、多くの階層を持つディスクは、再生が始まるまでに時間がかかります。ディスクの作成時には、階層を 2 つ以下にすることをすすめします。
- フォルダーの合計が 99 個までのディスクを再生できます。

故障かな？と思ったら

故障かな？ と思ったら

修理を依頼される前に、次の表の内容をチェックしてください。



それでも 直らないときは

「保証書とアフターサービス」をお読みになり、修理を依頼してください。

●共通項目

症状	原因	処置
電源が入らない。 動作しない。	各リード線やコネクターが正しく接続されていない。	正しく確実に接続されているか、もう一度確認してください。 車両のバッテリーのマイナス端子を外して、1分後再接続してください。
	ヒューズが切れている。	ヒューズが切れた原因を解決し、切れたヒューズと同じ容量のものとの交換してください。
音が出ない。 音が小さい。	音量を下げている。	音量を調節してください (→「基本的な操作」10 ページ)。
	前後の音量バランスの調節が適切でない。	正しく調節してください (→「前後の音量バランスを調節する」20 ページ)。
前または後ろのスピーカーから音が出ない。	前後の音量バランスの調節が適切でない。	正しく調節してください (→「前後の音量バランスを調節する」20 ページ)。
左または右のスピーカーから音が出ない。	左右の音量バランスの調節が適切でない。	正しく調節してください (→「左右の音量バランスを調節する」21 ページ)。
本機が誤動作する。 雑音が入る。	携帯電話などの電波発信機器を本機に近づけて使用している。	電波発信機器を本機から離してご使用ください。

●ラジオ

症状	原因	処置
ラジオの受信中、“ジージー、ザーザー”という雑音が多い。	放送局の周波数が合っていない。	周波数を正しく合わせてください (→「ラジオのふだんの操作」11 ページ)。
	放送局の電波が弱い。	ほかの放送局を選局してみてください (→「ラジオのふだんの操作」11 ページ)。
	周りに障害物があるなど、受信状態が良くない。	受信状態が良くなると、雑音が少なくなります。
自動選局できない。	放送局の電波が弱い。	手動で選局してください (→「ラジオのふだんの操作」11 ページ)。
FM は受信するが、AM が受信できない。 受信感度が悪い。	アンテナコントロールが接続されていない。	アンテナコントロールを正しく接続してください (→「接続する」32 ページ)。
	自動車のアンテナが伸びていない。	アンテナを十分に伸ばしてください。

●CD、WMA / MP3 / WAV

症状	原因	処置
CD 再生中、大きな雑音が出る。 CD の再生が途中で止まる。 CD が自動的に出てくる。	CD に大きなキズやそりがある。	CD を交換してください。 良くなれば、CD の不良です。
	CD が極端に汚れている。	CD の汚れをふき取ってください (→「CD の正しい使いかた」39 ページ)。
	CD に曇りや汚れがついている。	CD の曇りや汚れをふき取ってください (→「CD の正しい使いかた」39 ページ)。
	CD の裏表を逆にしてセットしている。	CD のレーベル面を上にしてセットしてください。

●AUX

症状	原因	処置
音が出ない。 音が小さい。	外部機器 (AUX) の音量を下げて いる。	外部機器 (AUX) の音量を調節して ください。
	抵抗入り AUX ケーブルを使用して 接続している。	抵抗なし AUX ケーブルを使用して 接続してください。

こんなメッセージが表示 されたら

正常に再生できないときは、ディスプレイにエラーメッセージが表示されます。

●共通のエラー表示

メッセージ (エラー番号)	原因	処置
[AMP ERROR]	スピーカーの接続状態または本機に 異常があり、保護回路が動作した。	スピーカーの接続状態をご確認ください。 エンジンスイッチを OFF → ON し てもメッセージが消えない場合は、 販売店またはパイオニアカスタマー サポートセンターにご相談ください。

●CD、WMA / MP3 / WAV のエラー表示

メッセージ (エラー番号)	原因	処置
[ERROR-07] [ERROR-11] [ERROR-12] [ERROR-17] [ERROR-30]	CD が汚れているとき。 CD にキズやひびがあるとき。	CD の汚れをふき取ってください。 CD を交換してください。
[ERROR-15]	CD-R / CD-RW を録音しないまま 使用している。	CD-R / CD-RW は、録音してから お使いください。
[ERROR-07] [ERROR-10] [ERROR-11] [ERROR-12] [ERROR-15] [ERROR-17] [ERROR-30] [ERROR-A0]	電気系、機構系の故障が考えられる とき。	車のエンジンスイッチを一度 OFF にしてから ON にするが、CD 再生 を一度やめてから、もう一度 CD 再 生にしてください。
[ERROR-23]	再生できないフォーマットの CD- ROM を挿入した。	CD を交換してください。
[NO AUDIO]	何も録音されていない CD-ROM を 挿入した。	WMA / MP3 / WAV ファイルの 記録されている CD-ROM と交換し てください。
[PROTECT]	ディスク内のすべてのファイルが デジタル著作権管理 (DRM) で保護 されている。	CD を交換してください。
[SKIPPED]	デジタル著作権管理 (DRM) で保護 された WMA ファイルを再生した。	デジタル著作権管理 (DRM) で保 護されていないファイルを再生して ください。

保証書とアフターサービス

商標・著作権など

●保証書

保証書は、ご購入年月日、販売店名などが記入されていることをお確かめのうえ、ご購入の際に販売店より受け取ってください。

保証書に記入もれがあったり、保証書を紛失したりすると、保証期間中でも保証が無効となります。記載内容をよくお読みの上、大切に保管してください。

●保証期間

この製品の保証期間は、お買い上げの日より1年間です。

●保証期間中の修理について

万一、故障が生じたときは、保証書に記載されている当社保証規定に基づき修理いたします。お買い上げの販売店または修理受付センター（沖縄県のみ沖縄サービス認定店）にご連絡ください。連絡先については、裏表紙の「修理窓口のご案内」をご覧ください。

●保証期間経過後の修理について

お買い上げの販売店または修理受付センター（沖縄県のみ沖縄サービス認定店）にご相談ください。修理すれば使用できる製品については、ご希望により有料で修理いたします。

●補修用性能部品の最低保有期間

当社は、本機の補修用性能部品を、製造打ち切り後最低6年間保有しています。（性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。）

●ご質問、ご相談は

本機に関するご質問、ご相談はパイオニアカスタマーサポートセンターまたはお買い上げの販売店にお問い合わせください。

●WMA

Windows Media は、米国 Microsoft Corporation の、米国、日本およびその他の国における登録商標または商標です。

本製品は、米国 Microsoft Corporation が所有する技術を使用しています。また、米国 Microsoft Licensing Inc. の許可を得ずに使用または頒布できません。

●MP3

本機を提供する場合、非営利目的の個人向けライセンスのみが提供されます。下記放送で、本機を使うライセンスを提供したり、いかなる形式にせよ、使う権利を意味するものではありません。下記放送で本機を使用する場合は、それぞれ固有のライセンスが必要となります。詳細は、インターネット上のホームページ <http://www.mp3licensing.com> をご覧ください。

- 営業目的、すなわち利益の発生するリアルタイム放送（地上波放送、衛星放送、ケーブルテレビを始めとするメディア）、インターネットを使った放送やデータ転送、イントラネットを始めとするネットワーク、あるいはペイオーディオやオンデマンド方式のオーディオといった電子的放送番組の配布システムなど。

●iTunes

iTunes は、米国および他の国々で登録された Apple Inc. の商標です。

おもな仕様

●共通部

使用電源：	DC 14.4 V (10.8 V ~ 15.1 V 使用可能)
アース方式：	マイナスアース方式
最大消費電流：	10.0 A
外形寸法	(取付寸法) : 178 (W) mm × 50 (H) mm × 165 (D) mm (ノーズ寸法) : 170 (W) mm × 46 (H) mm × 16 (D) mm
質量：	1.0 kg (コード含まず)

●アンプ／オーディオ部

最大出力：	50 W × 4 70 W × 1 ch / 2 Ω (for サブウーファー)
定格出力：	22 W × 4 (50 Hz ~ 15 000 Hz, 5 % THD, 4 ohm LOAD, Both Channels Driven)
負荷インピーダンス：	4 Ω (4 Ω ~ 8 Ω 使用可能)
ラウドネスコンター：	10 dB (100 Hz) 6.5 dB (10 kHz) (ボリューム：- 30 dB)
イコライザー (5 バンドグラフィックイコライザー)	
	周波数 : 80 Hz / 250 Hz / 800 Hz / 2.5 kHz / 8 kHz 調整幅 : ± 12 dB (2 dB step)
サブウーファーアウトプット	
	周波数 : 50 Hz / 63 Hz / 80 Hz / 100 Hz / 125 Hz / 160 Hz / 200 Hz スロープ : - 12 dB, - 6 dB/oct. 調整幅 : - 24 dB ~ + 6 dB 位相 : NORMAL / REVERSE

●CD プレーヤー部

形式：	コンパクトディスクオーディオシステム
使用ディスク：	コンパクトディスク
信号フォーマット	
	サンプリング周波数 : 44.1 kHz 量子化ビット数 : 16 ビット直線
周波数特性：	5 Hz ~ 20 000 Hz (± 1 dB)
S/N：	94 dB (1 kHz) (IHF-A ネットワーク)
ダイナミックレンジ：	92 dB (1 kHz)
チャンネル数：	2 (ステレオ)
MP3 デコーディングフォーマット：	MPEG-1 & 2 AUDIO LAYER-3
WMA デコーディングフォーマット：	Ver. 7, 7.1, 8, 9, 10, 11, 12 (2 ch audio) (Windows Media Player)
WAV シグナルフォーマット：	Linear-PCM, MS ADPCM

●FM チューナー部

受信周波数帯域：	76.0 MHz ~ 90.0 MHz
実用感度：	9 dBf (0.8 μ V/75 Ω 、モノラル、S/N : 30 dB)
S/N：	72 dB (IHF-A ネットワーク)
高調波歪率：	0.3 % (65 dBf 入力、1 kHz、ステレオ)、 0.1 % (65 dBf 入力、1 kHz、モノラル)
周波数特性：	30 Hz ~ 15 000 Hz (\pm 3 dB)
ステレオセパレーション：	45 dB (65 dBf 入力、1 kHz)

●AM チューナー部

受信周波数帯域：	522 kHz ~ 1 629 kHz
実用感度：	25 μ V (S/N : 20 dB)
S/N：	62 dB (IHF-A ネットワーク)

●付属品

コードユニット：	1
取付ネジ類：	1 式
取扱説明書：	1
保証書：	1



メモ

- 上記の仕様および外観は予告なく変更することがあります。また、この説明書の中のイラストと実物が一部異なる場合があります。

<各窓口へのお問い合わせ時のご注意>

「0120」で始まる電話番号は、携帯電話・PHS一部のIP電話などからは、ご利用になれません。

携帯電話・PHSからは、ナビダイヤル、またはIP電話をご利用下さい。(通話料がかかります)

正確なご相談対応のために折り返しお電話をさせていただくことがございますので発信者番号の通知にご協力いただけますようお願いいたします。

商品についてのご相談窓口 ※番号をよくお確かめの上でおかけいただけますようお願いいたします

パイオニア商品の取り付け・組み合わせなどについては、お買い求めの販売店様へお問い合わせください。

●商品のご購入や取り扱い、故障かどうかのご相談窓口およびカタログのご請求について

カスタマーサポートセンター

受付時間 月曜～金曜 9:30～18:00 (土曜・日曜・祝日・弊社休業日は除く)

■電話 《カーオーディオ／カーナビゲーション商品》

【固定電話から】 **0120-944-111** (無料)

【携帯電話・PHSから】 **0570-037-600** (ナビダイヤル・有料)

上記の電話番号がご利用いただけない場合

050-3820-7540 (IP電話・有料)

■ファックス

0570-037-602 (ナビダイヤル・有料)

■インターネットホームページ

<https://jpn.pioneer/ja/support/>

※商品についてよくあるお問い合わせ・お客様登録など

修理についてのご相談窓口 ※番号をよくお確かめの上でおかけいただけますようお願いいたします

修理をご依頼される場合は、取扱説明書の「故障かな?と思ったら」を一度ご覧になり、故障かどうかご確認ください。

それでも正常に動作しない場合は、①型名②ご購入日③故障症状を具体的に、ご連絡ください。

修理受付窓口

受付時間 月曜～金曜 9:30～18:00 (土曜・日曜・祝日・弊社休業日は除く)

■電話 【固定電話から】 **0120-5-81028** (無料)

【携帯電話・PHSから】 **0570-037-610** (ナビダイヤル・有料)

上記の電話番号がご利用いただけない場合

050-3820-7550 (IP電話・有料)

■ファックス

0120-5-81029 (無料)

■インターネットホームページ

<https://jpn.pioneer/ja/support/purpose/repair/>

※インターネットによる修理のお申し込みを受け付けております。

部品のご購入についてのご相談窓口 ※番号をよくお確かめの上でおかけいただけますようお願いいたします

●部品(付属品、取扱説明書など)のご購入について

部品受注センター

受付時間 月曜～金曜 9:30～18:00 (土曜・日曜・祝日・弊社休業日は除く)

■電話 【固定電話から】 **0120-5-81095** (無料)

【携帯電話・PHSから】 **0570-057-140** (ナビダイヤル・有料)

上記の電話番号がご利用いただけない場合

050-3820-7551 (IP電話・有料)

■ファックス

0120-5-81096 (無料)

■インターネットホームページ

<https://jpn.pioneer/ja/support/purpose/parts/flow/>

※FAXでご注文の際は上記ホームページの付属品購入の流れを参照のうえ、付属品注文票をダウンロードしてご利用ください。

記載内容は、予告なく変更させていただくことがありますので予めご了承ください。

VOL.09

パイオニア株式会社

〒113-0021

東京都文京区本駒込2-28-8 文京グリーンコート

© パイオニア株式会社 2012-2019

<KYZ19J> <QRA3020-B>